

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2672800204
法人名	マイクロテスト株式会社
事業所名	グループホームまごころ城陽
所在地	〒610-0111 城陽市富野南清水68番地5 (電話)0774-54-7761

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年1月21日	評価確定日	平成22年3月10日

【情報提供票より】(平成 21 年 11 月 20 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	16.1 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨モルタル造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 138,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり			1,500 円

(4)利用者の概要(11 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	8 名	要介護4	5 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	京きつ川病院、第二岡本総合病院、高橋内科病院、田坂歯科医院、服部歯科医院、本田歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに面し商店や企業、住宅が混在する場所にある当該ホームは、活気にあふれ賑やかで、掃除や調理の準備など、家庭で行われている日常の生活を垣間見ることが出来ます。職員は自分の親を入れたいホームを目指し、法人の協力を受け細かい部分にまで目を向け改善に取り組まれています。また地域や行政との関係作りにも熱心に取り組み、市から委託を受け市民を対象とした認知症予防教室を定期的に開催し、毎回好評を得ています。医療面での協力医との連携も取れており、協力医が家族会に参加したり、往診の際には個々の家族に報告書を送り状態を知らせています。理念である、利用者と家族、職員、地域が一つの輪を築き、まごころを大切に暮らしているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった栄養面の管理については献立表を毎月管理栄養士に見せアドバイスを受けたり、金銭管理は立て替え金とし、毎月明細と領収書を郵送するなど、改善に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価票は職員会議で外部評価の意義や目的を説明し、ユニットリーダーが職員に意見を聞き、管理者と共に集約して作成されるなど、全員での取り組みが見られます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加して開催されています。会議ではホームからの現状や活動報告がなされる他、消防訓練の報告やターミナルについても話し合っています。また参加者から地域の情報や意見を頂き、運営に反映させています。今後はホームの働きかけにより自治会長の参加を予定しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年に2回ホーム行事の際に家族会を開催し、直接家族の意見を聞く機会や協力医にも同席頂き、医療面でのサポートを受けています。また来所時に意見を聞いたり、意見箱や書面に苦情機関を掲載するなど、家族からの意見収集に努めています。出された意見や要望は必要に応じて会議等で検討され、家族に回答しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の民生委員より情報を得て、地域の夏祭りやコミュニティセンターへの催しに参加しています。幼稚園と相互訪問や中学生の体験学習を受け入れるなどの交流を図っています。また市の委託を受けて地域の方を対象とした認知症予防教室の定期的な開催やホームの夏祭りに家族や地域に声をかけ交流の機会を持っています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に法人代表を中心に、法人の理念をもとに利用者、家族、職員、地域が一つの輪となることを目指して事業所の理念を作り上げた。理念には自分の親を入れたいホームを目指し、事業指針として7つの約束を設けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や各ユニットに掲示され、毎朝理念と事業指針を唱和している。毎年度ホームの運営方針を立て、申し送り時や会議の中で、理念と共に確認し合っている。職員は理念を念頭に利用者が本人らしく普通の生活が送れるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民生委員より情報を得て、地域の夏祭りやコミュニティセンターへの催しに参加している。幼稚園と相互訪問や中学生の体験学習を受け入れるなどの交流を図っている。また地域の方を対象とした認知症予防教室の定期的な開催やホームの夏祭りに家族や地域に声をかけ交流の機会を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題であった栄養面の管理については献立表を毎月管理栄養士に見せアドバイスを受けた。金銭管理は立て替え金とし、毎月明細と領収書を郵送するなど、改善に取り組んでいる。今回の自己評価票は職員会議で外部評価の意義や目的を説明し、ユニットリーダーが職員に意見を聞き、管理者と共に集約して作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に家族、市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加して開催されている。会議ではホームからの現状や活動報告がなされる他、消防訓練の報告やターミナルについても話し合っている。また参加者から地域の情報や意見を頂き、運営に反映させている。今後はホームの働きかけにより自治会長の参加を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者にはホームの行事に参加をお願いしたり、市から委託を受け市民を対象とした認知症予防教室を定期的に開催し、毎回好評を得ている。介護相談員を定期的に受け入れるなど、常に市と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時に近況報告するとともに、毎月写真入りのホーム便りと個々の様子や健康状態が書かれた一筆箋を郵送している。また季節の行事予定を利用者と職員に分けて記載した季刊誌を発行している。金銭管理は立て替え金とし、毎月の請求書と一緒に明細と領収書を郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回ホーム行事の際に家族会を開催し、直接家族の意見を聞く機会や協力医にも同席頂き、医療面でのサポートを受けている。また来所時に意見を聞いたり、意見箱や書面に苦情機関を掲載するなど、家族からの意見収集に努めている。出された意見や要望は必要に応じて会議等で検討され、家族に回答している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と何でも言い合える関係作りに努めている。ストレス回避のために法人の補助を得て親睦会を開いたり、ストレスマネジメントの研修を行っている。また入職者にはベテラン職員について日勤帯から始め、約1か月かけて利用者に馴染んでもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画が確立されており、習熟度に応じて研修に参加している。また外部研修の案内は掲示し、希望に沿ってシフト調整し順次参加してもらっている。研修後は報告書を提出し、他の職員にも会議の際に伝達研修を行い、資料は回覧したり場合によっては配布し情報を共有している。ホーム内でも2ヶ月毎に勉強会を行い、職員が交代で講師を務め、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加入している。管理者は近隣の他ホームや法人内のホームとも交流し、情報交換している。京都府にも働きかけ情報収集を行っており、今後は他ホームの職員との見学や相互訪問の機会を検討中である。	○	今後の課題として検討されていることもあり、職員が他のホームを知ることにより、これまでのケアについて振り返り、気づきや自信につながる良い機会となる。職員間の見学や交換研修等の機会を確保し交流されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームの見学をお願いしている。希望があれば空室を利用して体験入居も可能で、そのまま入居に至った利用者もいる。入居後も馴染めるまで家族の協力を得て、職員が自宅への外泊や外出に付き添い、時間をかけて馴染んでもらうなど個々の利用者に合わせて対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は利用者に調理方法を一から教わり、家事はもちろんのこと、歴史を教わったり地域の道案内をしてもらうこともある。職員は出勤して利用者の顔を見るとホッと、気持ちが落ち込んだ時は互いに寄り添い、3世帯が同居しているような支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、困難な場合は表情や行動から利用者の思いの把握に努めている。利用前には職員が自宅を訪れ、本人と家族別々に話を聞き情報を収集している。また職員の日々の気づきや思いを次回用のアセスメントシートに記入して情報の共有と共にケアプランの作成に役立っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師の意見を聞いた上で、担当者を中心にサービス担当者会議を開きケアプランを作成している。会議には必ず利用者や家族に出席頂き、他の職員の意見は日々の思いが書き込まれたアセスメントシートを利用して検討されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは6ヶ月毎にモニタリングと評価を行い、サービス担当者会議を開催し見直されている。状態に変化が見られる場合には、その都度見直しされている。また日々の記録はカードックスを利用し、ケアプランをコピーしたものを介護記録の横に貼り付け、確認しながら記載している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が行けない時の通院介助や馴染みの喫茶店や美容院への外出を支援している。また希望により入院の際の身の回りの支援や家族との外出に付き添うなど、利用者や家族の思いを大切に柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に本人や家族に相談してかかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を継続されている方もいる。協力医の往診が月に2回あり、必要があれば訪問歯科や歯科衛生士の訪問も受けている。協力医とは24時間連絡可能で、すぐに駆けつけてくれる。家族会への参加や毎月家族宛てに受診時の報告書を郵送してもらうなど、安心の協力体制が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	歩行が困難になったり、医療が必要となった場合の転居や入院に関するホームの方針を入居時に家族に対して説明している。これまで看取りの経験もあり、家族の希望や個々の状況に応じて主治医が判断し、家族や職員を交えて話し合い、本人にとっての最良の方法を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の方針として利用者はおお客様であるとの思いから、利用者との接し方についても職員間で話し合い、常に利用者の立場になって考え、個々の生活歴に応じた言葉かけをするよう心がけている。また個人の記録は各ユニット事務所の鍵付きの書庫に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床も個々に違い、朝食時に声かけはするが、後でも食べられるよう時間に幅を持たせている。大まかな一日の流れはあるものの個々のペースに合わせ、居室で縫物をしたり、リビングで他の利用者や職員と談笑したりと、思い思いに過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日担当者が利用者に希望を聞いたり、前日と重ならない様配慮しながら献立を立てている。利用者と共に毎日買物に出かけ、利用者のほとんどが職員と一緒に下ごしらえや調理、片付け等行っている。職員を交えての食事風景は笑いが絶えない楽しみの時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の準備がされ、午後から夕方までの間で好きな時間に入浴してもらっている。希望により毎日の入浴や夕食後の入浴も可能で、週に2回以上は入浴できるよう支援している。拒否が見られる場合にはスタッフを交代したり、好みの洋服へ着替えを勧め入浴につなげるなど工夫して入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は買物や食事の支度、階段や廊下の手すり拭き、掃除等の役割が日々の楽しみとなっている。趣味を活かして生け花やお茶を立てて職員や利用者にもふるまうなど楽しみな時間を設けている。また鍋を囲んだり、ホットプレート、炊飯器を使ったおやつ作りは利用者、職員の心弾ませる時間となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように散歩や買い物に出かけている。年間行事計画に沿って外出行事を行っており、遠足や外食花見等の行事の際には家族を誘って出かけることもある。また個別に利用者の希望により、喫茶店に出かけたり、家族との外出に介助として同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	国道沿いではあるが日中玄関の施錠は行わず、センサーで対応している。2階ユニット入り口である階段は転倒防止を防ぐため柵をしているが、自由に開けることが出来る仕組みになっている。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者が外に出たそうにしている場合は一緒に出かけるなどして対処している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防訓練を開催し、1度は消防署の指導を受け、民生委員にも参加頂き夜間を想定して行っている。またホーム独自でも避難訓練を行い、利用者も参加して実際の避難誘導を行っている。運営推進会議でも結果について報告している。	○	民生委員以外にも近隣や地域に声をかけ、避難訓練に参加してもらったり、地域の一員として地区の防災訓練に参加するなどの更なる取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や水分摂取量は記録に残している。食事は昼食をメインとして寝る前に胃がもたれないよう配慮している。また利用者の状態に応じて、食材を刻んだり、一口大のおにぎりにして提供している。毎月法人の管理栄養士に献立表をチェックしてもらったり、毎月の体重測定を往診医に見てもらいアドバイスを頂くなど利用者の栄養、健康管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチン是对面式で職員からも利用者からも互いの様子が良く見える。季節感を出す工夫として玄関先に花を植えたり、季節に合わせた作品を飾ったり、干し柿を吊したりしている。ユニット毎にテーブルやソファの配置を変えたり、廊下には毎年正月に各利用者の名前と年齢が書かれた写真を貼り、他の作品と共に歩行を兼ねて見ることが出来るよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れたものを持参いただくようお願いしており、利用者は自宅よりベッド、タンス、テレビ、机や椅子、仏壇、好みの写真等を持参され畳カーペットを敷いている利用者もいる。居室入り口には季節ごとに飾りつけられた名前プレートを貼り、暖簾をかけるなどして自室がわかりやすいよう配慮している。		